

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

THIS PAGE BLANK (USPTO)

PCT/JP01/00159

09/936157

12.01.01

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

REC'D 02 MAR 2001

WIPO

PCT

JP01/159

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 2月18日

ELU

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-041317

出 願 人

Applicant(s):

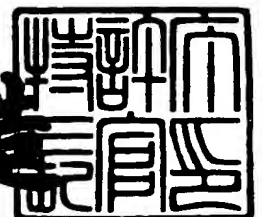
松下電器産業株式会社

**PRIORITY
DOCUMENT**
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2001年 2月16日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3007328

【書類名】 特許願

【整理番号】 2022520049

【提出日】 平成12年 2月18日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H04L 9/00

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式
会社内

【氏名】 柴田 修

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式
会社内

【氏名】 湯川 泰平

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式
会社内

【氏名】 関部 勉

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式
会社内

【氏名】 廣田 照人

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式
会社内

【氏名】 齊藤 義行

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式
会社内

【氏名】 大竹 俊彦

【特許出願人】

【識別番号】 000005821

【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100090446

【弁理士】

【氏名又は名称】 中島 司朗

【選任した代理人】

【識別番号】 100109210

【弁理士】

【氏名又は名称】 新居 広守

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 特願2000- 6989

【出願日】 平成12年 1月14日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 014823

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9810105

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 認証通信装置およびシステム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 共通鍵を用いて暗号通信を行うリードライタ装置あるいはメモリ装置であって、

前記リードライタ装置は、

共通鍵を記憶する第 1 共通鍵記憶手段と、

アクセス情報を記憶するアクセス情報記憶手段と、

乱数種を記憶する第 1 乱数種記憶手段と、

前記アクセス情報記憶手段に格納されているアクセス情報と前記第 1 乱数種記憶手段に格納されている乱数種とを合成する合成処理手段と、

前記合成処理手段で合成されたデータを前記第 1 共通鍵記憶手段に格納されている共通鍵を用いて暗号化して第 1 乱数を生成する第 1 暗号化手段と、

前記第 1 暗号化手段で生成した乱数を前記第 1 乱数種記憶手段に格納する第 1 乱数種更新手段と、

前記第 1 暗号化手段で生成した第 1 乱数と前記メモリ装置から転送される第 2 乱数を用いて前記メモリ装置と相互認証を行なう第 1 相互認証処理手段と、

前記第 1 相互認証処理手段における認証受理をうけて前記第 1 暗号化手段で生成した前記第 1 乱数と前記メモリ装置から転送される第 2 乱数から時変鍵を生成する第 1 時変鍵生成手段と、

前記リードライタ装置の機密データを前記第 1 時変鍵生成手段で生成した時変鍵を用いて暗号化して暗号化機密データを生成し前記メモリ装置に転送する、

あるいは前記メモリ装置から転送される暗号化機密データを前記第 1 時変鍵生成手段で生成した時変鍵を用いて復号化して機密データを抽出する第 1 暗号復号化手段を具備することを特徴とする認証通信装置、

あるいは前記メモリ装置は、

機密データを記憶する機密データ記憶手段と、

共通鍵を記憶する第 2 共通鍵記憶手段と、

乱数種を記憶する第 2 乱数種記憶手段と、

前記リードライタ装置から転送される第 1 乱数を前記第 2 共通鍵記憶手段に格納されている共通鍵を用いて復号化する第 1 復号化手段と、

前記第 1 復号手段で復号化したデータからアクセス情報を分離する分離処理手段と、

前記第 2 乱数種記憶手段に格納されている乱数種から第 2 乱数を生成する乱数生成手段と、

前記乱数生成手段で生成した乱数を前記第 2 乱数種記憶手段に格納する第 2 乱数種更新手段と、

前記リードライタ装置から転送される第 1 乱数と前記乱数生成手段で生成した第 2 乱数を用いて前記リードライタ装置と相互認証を行なう第 2 相互認証処理手段と、

前記第 2 相互認証処理手段における認証受理をうけて前記リードライタ装置から転送される第 1 乱数と前記乱数生成手段で生成した第 2 乱数から時変鍵を生成する第 2 時変鍵生成手段と、

前記分離処理手段から分離されたアクセス情報を基に前記機密データ記憶手段に格納されている情報から機密データを選択し前記第 2 時変鍵生成手段で生成された時変鍵を用いて暗号化して暗号化機密データを生成し前記リードライタ装置に転送する、

あるいは前記リードライタ装置から転送される暗号化機密データを前記第 2 時変鍵生成で生成した時変鍵を用いて復号化して機密データを抽出し前記分離処理手段から分離されたアクセス情報を基に前記機密データ記憶手段に格納する第 2 暗号復号化手段を具備することを特徴とする認証通信装置、

および前記リードライタ装置および前記メモリ装置を有することを特徴とする認証通信システム。

【請求項 2】 共通鍵を用いて暗号通信を行うリードライタ装置あるいはメモリ装置であって、

前記リードライタ装置は、

共通鍵を記憶する第 1 共通鍵記憶手段と、

アクセス情報を記憶するアクセス情報記憶手段と、

乱数種を記憶する第1乱数種記憶手段と、

前記第1乱数種記憶手段に格納されている乱数種から第3乱数を生成する第1乱数生成手段と、

前記アクセス情報記憶手段に格納されているアクセス情報と前記第1乱数種生成手段で生成した第3乱数とを合成する合成処理手段と、

前記合成処理手段で合成されたデータを前記第1共通鍵記憶手段生成に格納されている共通鍵を用いて暗号化して第1乱数を生成する第1暗号化手段と、

前記第1乱数化手段で生成した乱数を前記第1乱数種記憶手段に格納する第1乱数種更新手段と、

前記第1暗号化手段で生成した第1乱数と前記メモリ装置から転送される第2乱数を用いて前記メモリ装置と相互認証を行なう第1相互認証処理手段と、

前記第1相互認証処理手段における認証受理をうけて前記第1暗号化手段で生成した第1乱数と前記メモリ装置から転送される第2乱数から時変鍵を生成する第1時変鍵生成手段と、

前記リードライタ装置の機密データを前記第1時変鍵生成手段で生成した時変鍵を用いて暗号化して暗号化機密データを生成し前記メモリ装置に転送する、

あるいは前記メモリ装置から転送される暗号化機密データを前記第1時変鍵生成手段で生成した時変鍵を用いて復号化して機密データを抽出する第1暗号復号化手段を具備することを特徴とする認証通信装置、

あるいは前記メモリ装置は、

機密データを記憶する機密データ記憶手段と、

共通鍵を記憶する第2共通鍵記憶手段と、

乱数種を記憶する第2乱数種記憶手段と、

前記リードライタ装置から転送される第1乱数を前記第2共通鍵記憶手段に格納されている共通鍵を用いて復号化する第1復号化手段と、

前記第1復号手段で復号化したデータからアクセス情報を分離する分離処理手段と、

前記第2乱数種記憶手段に格納されている乱数種から第2乱数を生成する第2乱数生成手段と、

前記第 2 乱数生成手段で生成した乱数を前記第 2 乱数種記憶手段に格納する第 2 乱数種更新手段と、

前記リードライタ装置から転送される第 1 乱数と前記第 2 乱数生成手段で生成した第 2 乱数を用いて前記リードライタ装置と相互認証を行なう第 2 相互認証処理手段と、

前記第 2 相互認証処理手段における認証受理をうけて前記リードライタ装置から転送される第 1 乱数と前記乱数生成手段で生成した第 2 乱数から時変鍵を生成する第 2 時変鍵生成手段と、

前記分離処理手段から分離されたアクセス情報を基に前記機密データ記憶手段に格納されている情報から機密データを選択し前記第 2 時変鍵生成手段で生成した時変鍵を用いて暗号化して暗号化機密データを生成し前記リードライタ装置に転送する、

あるいは前記リードライタ装置から転送される暗号化機密データを前記第 2 時変鍵生成で生成した時変鍵を用いて復号化して機密データを抽出し前記分離処理手段から分離されたアクセス情報を基に前記機密データ記憶手段に格納する第 2 暗号復号化手段を具備することを特徴とする認証通信装置、

および前記リードライタ装置および前記メモリ装置を有することを特徴とする認証通信システム。

【請求項 3】 前記メモリ装置においてコンテンツデータを記憶するコンテンツデータ記憶手段を具備し、

前記リードライタ装置において前記第 3 乱数の生成とは独立に前記第 1 乱数生成手段を用いて第 3' 乱数を生成し、

前記第 3' 乱数からコンテンツ鍵を生成するコンテンツ鍵生成手段と、

前記リードライタ装置のコンテンツデータを前記コンテンツ鍵生成手段で生成したコンテンツ鍵を用いて暗号化して暗号化コンテンツデータを生成し前記メモリ装置に転送する第 2 暗号化手段と、

前記コンテンツ鍵を前記第 1 共通鍵記憶手段に格納されている共通鍵を用いて暗号化して暗号化コンテンツ鍵を生成する第 3 暗号化手段を前記リードライタ装置に具備し、

前記暗号化コンテンツ鍵を機密データとして第 1 暗号復号化手段を用いて前記メモリ装置に転送することを特徴とする請求項 2 記載の認証通信装置およびシステム。

【請求項 4】 前記第 3 暗号化手段が前記第 3' 乱数とコンテンツ付加情報を用いてコンテンツ鍵を生成することを特徴とする請求項 3 記載の認証通信装置およびシステム。

【請求項 5】 前記時変鍵生成手段が前記第 1 および第 2 乱数と前記共通鍵を用いて時変鍵を生成することを特徴とする請求項 1 または 2 または 3 または 4 記載の認証通信装置およびシステム。

【請求項 6】 前記第 1 および第 2 相互認証処理手段はチャレンジレスポンス型の認証プロトコルに基づく通信により相互に相手機器が正当な機器であることを認証することを特徴とする請求項 1 または 2 または 3 または 4 または 5 記載の認証通信装置およびシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、音楽、画像、映像、ゲームなどのデジタルコンテンツを機器間で共通鍵を共有化して暗号通信を行う装置およびシステムにおいて、相互認証と同時に著作物の保護を要する機密データが格納されている機密データ記憶領域にアクセスするための情報（アドレス、セクタ数など）を暗号化して転送する認証通信装置およびシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】

近年、デジタル情報圧縮技術の進展とインターネットに代表されるグローバルな通信インフラの爆発的な普及によって音楽、画像、映像、ゲームなどのコンテンツをデジタル情報として通信回線を利用して各家庭に配信することが実現されはじめた。

【0003】

デジタルコンテンツの著作権者の権利や流通業者の利益を保護した流通配信

システムを確立するために、通信の傍受、盗聴、なりすましなどによる不正入手や、受信したデータを記憶した記録媒体における違法複製、違法改ざんなどの不正行為を防止することが課題となり、正規システムの判別、データスクランブルを行なう暗号/認証などの著作物保護技術が必要となる。

【 0 0 0 4 】

著作物保護技術については従来より種々なものが知られており、代表的なものとして著作物の保護を要する機密データが格納されている機密データ記憶領域にアクセスする際に、機器間で乱数と応答値の交換を行なって相互に正当性を認証し合い、正当である場合のみアクセスを許可するチャレンジレスポンス型の相互認証技術がある。また、機密データを相互認証に用いた乱数あるいは応答値を用いて暗号通信を行い、不正解読を防止する。

【 0 0 0 5 】

【発明が解決しようとする課題】

ここで課題となるのは、著作物の保護を要する機密データが格納されている機密データ記憶領域にアクセスするための情報（アドレス、セクタ数など）の機密性をどのように保護するかである。

機密データ記憶領域にアクセスするための情報の改竄による不正行為を考えると、例えば相互認証だけ正規機器を用いて行い、機密データ記憶領域にアクセスするための情報をなりすまして別の情報に改竄して転送し、機密データ記憶領域の機密データを不正に入手する行為が考えられる。

【 0 0 0 6 】

上記不正行為に防止するには、前述の暗号通信技術を機密データだけに適用するのではなくでなく、機密データ記憶領域にアクセスするための情報にも拡大して適用すればよい。しかし、単純に相互認証を行った後に、機密データ記憶領域にアクセスするための情報の暗号通信、機密データの暗号通信という処理にしても、機密データ記憶領域にアクセスするための情報の暗号通信方法が露呈した場合、前述の不正行為が可能となる。

【 0 0 0 7 】

そこで、本発明では、機密データ記憶領域にアクセスするための情報を暗号化

して機密性を保護し、かつ不正に改竄された場合にアクセスできなくする装置およびシステムを提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】

以上のような課題を解決するため、本発明は、相互認証と同時に機密データ記憶領域にアクセスするための情報を暗号化して転送する。

【0009】

【発明の実施の形態】

以下に本発明の原理と実施例を添付の図面を用いて説明する。

（実施の形態1）

図1は、本発明の実施の形態1における構成図を示しリードライタ装置101とメモリ装置102が暗号通信を行なうシステムである。

【0010】

両装置ともに、乱数発生に用いる乱数種を格納する乱数種記憶手段113、114、共通鍵UKを格納する共通鍵記憶手段105、106を備える。なお、これら記憶手段は外部から直接アクセスすることができないプロテクト領域に記憶されており、装置製造時に乱数種の初期値と共通鍵が書き込まれる。

また、メモリ装置102に著作物の保護を要する機密データを格納する機密データ記憶手段122を備え、リードライタ装置101に機密データ記憶手段122へのアクセス情報103を備える。なお、アクセス情報は入出力手段125を介して与えられる。

【0011】

リードライタ装置101がメモリ装置102の機密データ記憶手段122にアクセスするには、まず、リードライタ装置101のアクセス情報103と乱数種記憶手段113に格納されている乱数種とを合成処理手段107で合成する。ここで合成処理方法としては、例えばアクセス情報103のデータ長が32ビット、乱数種のデータ長が64ビット、合成されたデータのデータ長が64ビットとした場合、アクセス情報103のデータ32ビットと乱数種の下位データ32ビットを連結して64ビットの合成データを生成するようにすればよい。

【 0 0 1 2 】

次に、合成処理手段 1 0 7 で合成したデータを共通鍵記憶手段 1 0 5 に格納されている共通鍵 UK を用いて暗号化して第 1 乱数 R 1 を生成し、かつ乱数種更新手段 1 2 3 を用いて第 1 乱数 R 1 を乱数種記憶手段 1 1 3 に格納して乱数種を更新する。メモリ装置 1 0 2 でも、乱数生成手段 1 1 2 で乱数種記憶手段 1 1 4 に格納されている乱数種から第 2 乱数 R 2 を生成し、かつ乱数種更新手段 1 2 4 を用いて乱数種記憶手段 1 1 4 に格納して乱数種を更新する。

【 0 0 1 3 】

その後、互いの乱数 (R 1、R 2) を交換し、または応答値 (V 1、V 2) を交換し比較することによって相互に相手装置が正当な装置であることを認証するチャレンジレスポンス型の相互認証 (1 1 5、1 1 6) を行なう。相互認証処理手段 1 1 5、1 1 6 によって相手機器が正当であること確認されたら、互いの乱数 (R 1、R 2) から相互認証毎に変化する時変鍵 VK を生成 (1 1 7、1 1 8) し共有化する。また、メモリ装置では、同時に第 1 乱数 R 1 を共通鍵記憶手段 1 0 6 に格納されている共通鍵 UK を用いて復号化手段 1 1 0 で復号化してアクセス情報 1 0 3 が含まれる合成データを抽出し、分離処理手段 1 0 8 でアクセス情報を分離する。

【 0 0 1 4 】

ここで、リードライタ装置 1 0 1 からメモリ装置 1 0 2 の機密データ記憶手段 1 2 2 に機密データ 1 2 1 を書き込む場合は、リードライタ装置 1 0 1 の時変鍵生成手段 1 1 7 で生成した時変鍵 VK を用いて入出力手段 1 2 5 を介して与えられる機密データ 1 2 1 を暗号化して暗号化機密データを生成してメモリ装置 1 0 2 へ転送する。メモリ装置 1 0 2 では、時変鍵生成手段 1 1 8 で生成した時変鍵 VK を用いて転送された暗号化機密データを復号化して機密データを得て、分離処理手段 1 0 8 で分離されたアクセス情報 1 0 4 を基に、機密データ記憶手段 1 2 2 に格納する。

【 0 0 1 5 】

同様に、メモリ装置 1 0 2 の機密データ記憶手段 1 2 2 に格納されている機密データをリードライタ装置 1 0 1 に読み込む場合は、メモリ装置 1 0 2 の分離処

理手段 1 0 8 で分離されたアクセス情報 1 0 4 を基に、機密データ記憶手段 1 2 2 に格納されている機密データをリードし、時変鍵生成手段 1 1 8 で生成した時変鍵 V K を用いて機密データを暗号化して暗号化機密データを生成してリードライタ装置 1 0 1 へ転送する。リードライタ装置 1 0 1 では、時変鍵生成手段 1 1 7 で生成した時変鍵 V K を用いて転送された暗号化機密データを復号化して機密データを得る。

【 0 0 1 6 】

なお、本実施の形態では、第 2 乱数の生成方法は乱数生成手段で生成された乱数値を第 2 乱数としたが、乱数生成に用いた乱数種を第 2 乱数としてもよい。また、時変鍵の生成に、相互認証に用いた乱数を用いたが、応答値を用いてもかまわない。

また、アクセス情報、機密データの暗号化および復号化に用いる方法は同一のアルゴリズムのものをを用いてよく、例えば D E S (Data Encryption Standard) などを用いればよい。

【 0 0 1 7 】

また、第 2 乱数、相互認証の応答値、時変鍵の生成に用いる方法は同一のアルゴリズムのものをを用いてよく、例えば S H A (Secure Hash Algorithm) などの一方向性の関数を用いればよい。

また、共通鍵、時変鍵の鍵長は何ビットでもよく、例えば 5 6 ビットとすればよい。

【 0 0 1 8 】

以上のように、本実施の形態の認証通信装置およびシステムは、相互認証と同時に機密データ記憶領域（手段）にアクセスするための情報を暗号化して転送するため、機密データ記憶領域にアクセスするための情報の機密性を高めることができる。

また、仮に機密データ記憶領域にアクセスするための情報を不正になりすまして別の情報に改竄して転送すると、リードライタ装置で認識している第 1 乱数 R 1 とメモリ装置で認識している第 1 乱数 R 1 が異なることになるので相互認証が確立しないため、機密データ記憶領域にアクセスするための情報を不正に改竄し

た場合、機密データ記憶領域にアクセスできなくすることが可能であり、機密データを不正に入手するのを防止できるという効果がある。

【 0 0 1 9 】

（実施の形態 2）

図 2 は、本発明の実施の形態 2 における構成図を示し、図 1 で示した認証通信装置およびシステムにおいて、アクセス情報 1 0 3 の成分を含む第 1 乱数 R 1 を乱数種更新手段 1 2 3 を用いて乱数種記憶手段 1 1 3 に格納して乱数種を更新するのではなく、メモリ装置 1 0 2 だけでなくリードライタ装置 1 0 1 にも乱数生成手段 2 1 1 を有する構成にして、乱数生成手段 2 1 1 で乱数種記憶手段 1 1 3 に格納されているアクセス情報 1 0 3 に依存しない乱数種から第 3 乱数 R 3 を生成し、生成した乱数を乱数種更新手段 1 2 3 を用いて乱数種記憶手段 1 1 4 に格納して乱数種を更新するようにしたものである。

【 0 0 2 0 】

以上のように、本実施の形態の認証通信装置およびシステムは、乱数の更新に機密データ記憶領域にアクセスするための情報（固定値）が関連しないため、乱数の周期性を高めることができるという効果がある。

（実施の形態 3）

図 3 は、本発明の実施の形態 3 における構成図を示し、図 2 で示した認証通信装置およびシステムにおいて、メモリ装置にリードライタ装置から自由にアクセス可能なデータ記憶手段 3 2 4 を備えるようにする。

【 0 0 2 1 】

また、第 1 乱数 R 1 の生成に用いた第 3 乱数 R 3 とは独立に乱数種記憶手段 1 1 3 に格納してある乱数種から乱数生成手段 2 1 1 を用いて乱数を生成し、生成した乱数を乱数種更新手段 1 2 3 を用いて乱数種記憶手段 1 1 4 に格納し、かつ生成した乱数とコンテンツの再生回数、使用期間などのコンテンツ付加情報 3 3 3 とをコンテンツ鍵生成手段 3 2 7 で合成してコンテンツ鍵を生成するようにする。ここで合成処理方法としては、例えばコンテンツ付加情報 3 3 3 のデータ長が 8 ビット、乱数のデータ長が 6 4 ビット、合成されたデータのデータ長が 6 4 ビットとした場合、コンテンツ付加情報 3 3 3 のデータ 8 ビットと乱数の下位デ

ータ56ビットを連結して64ビットの合成データを生成するようにすればよい。

【0022】

また、入出力手段125を介して与えられるコンテンツデータ331をコンテンツ鍵生成手段327で生成したコンテンツ鍵CKを用いて暗号化してメモリ装置102に転送し、メモリ装置102では転送された暗号化コンテンツデータEncCDをデータ記憶手段324に格納するようにする。

また、コンテンツ鍵生成手段327で生成したコンテンツ鍵CKを共通鍵記憶手段105に格納されている共通鍵UKを用いて暗号化し、さらに時変鍵生成手段117で生成した時変鍵VKを用いて暗号化して暗号化コンテンツ鍵を暗号化したデータEnc(EncCK)を生成してメモリ装置102へ転送する。メモリ装置102では、時変鍵生成手段118で生成した時変鍵VKを用いて転送されたデータEnc(EncCK)を復号化して暗号化コンテンツ鍵EncCKを得て、分離処理手段108で分離されたアクセス情報104を基に、機密データ記憶手段122に格納する。

【0023】

なお、リードライタ装置101で暗号化された暗号化コンテンツデータEncCDを秘密データとして扱って、メモリ装置102の機密データ記憶手段122に格納するようにしてもよい。

また、リードライタ装置101で暗号化された暗号化コンテンツ鍵EncCKを秘密データとして扱わないで、メモリ装置102のデータ記憶手段324に格納するようにしてもよい。

【0024】

また、コンテンツ鍵CKを暗号する暗号化手段329、コンテンツデータCDを暗号化する暗号化手段335は新たに設ける必要はなく、暗号化手段109、あるいは暗号復号化手段119と共有化してもよい。

以上のように、本実施の形態の認証通信装置およびシステムは、リードライタ装置の入出力手段を介して与えられるコンテンツデータをメモリ装置の自由にアクセスできるデータ記憶領域に暗号化して格納する場合において、コンテンツデ

ータを暗号するためのコンテンツ鍵を生成するのに新たに乱数発生機構を必要とせず、アクセス情報の合成に用いる乱数発生機構と共有化できるという効果がある。

【0025】

【発明の効果】

以上のことより本発明は以下のような効果を奏する。本発明に係る認証通信装置およびシステムは、相互認証と同時に機密データ記憶領域にアクセスするための情報を暗号化して転送するため、機密データ記憶領域にアクセスするための情報の機密性を高めることができる。

【0026】

また、仮に機密データ記憶領域にアクセスするための情報を不正になりすまして別の情報に不正に改竄して転送すると相互認証が確立しないため、機密データ記憶領域にアクセスできなくすることが可能であり、機密データを不正に入手するのを防止できるという効果がある。

また、本発明に係る認証通信装置およびシステムは、乱数の更新に機密データ記憶領域にアクセスするための情報（固定値）が関連しないため、乱数の周期性を高めることができるという効果がある。

【0027】

また、本発明に係る認証通信装置およびシステムは、リードライタ装置の入出力手段を介して与えられるコンテンツデータをメモリ装置の自由にアクセスできるデータ記憶領域に暗号化して格納する場合において、コンテンツデータを暗号するためのコンテンツ鍵を生成するのに新たに乱数発生機構を必要とせず、アクセス情報の合成に用いる乱数発生機構と共有化できるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】

実施の形態1の構成を示す構成図である。

【図2】

実施の形態2の構成を示す構成図である。

【図3】

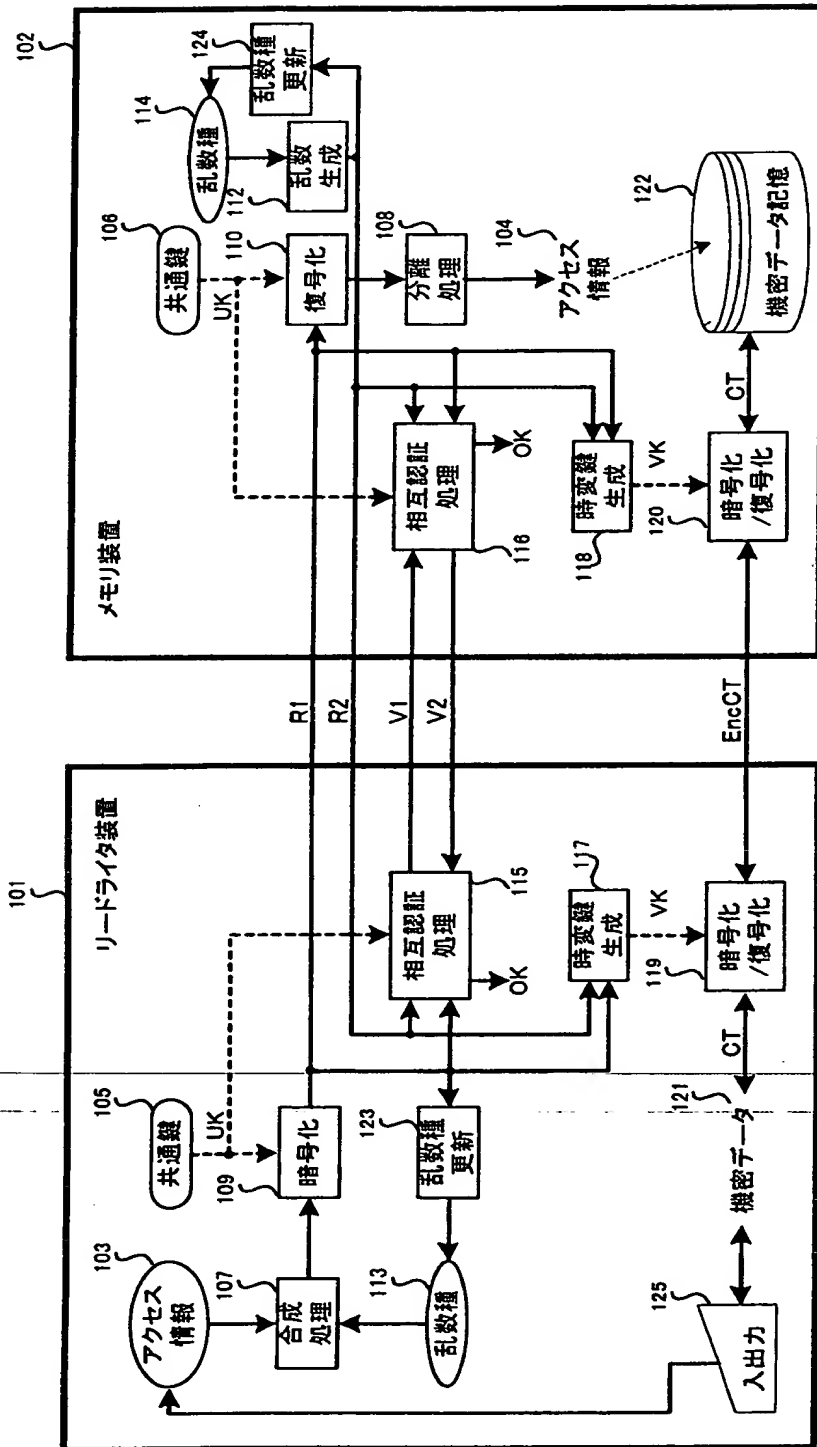
実施の形態 3 の構成を示す構成図である。

【符号の説明】

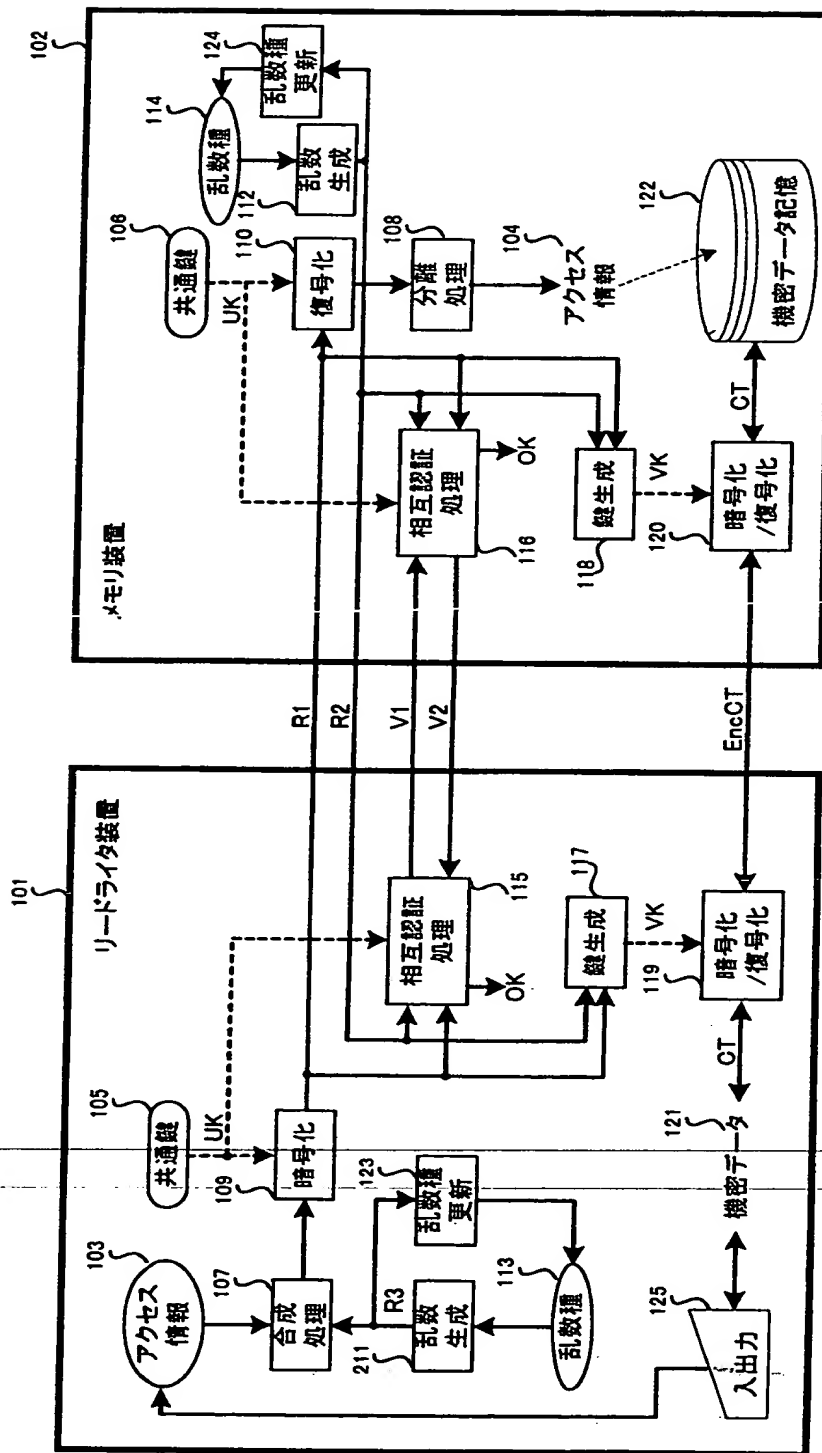
- 101 リードライタ装置
 - 102 メモリ装置
 - 103 アクセス情報記憶手段
 - 104 アクセス情報
 - 105、106 共通鍵記憶手段
 - 107 合成処理手段
 - 108 分離処理手段
 - 109 第1暗号化手段
 - 110 第1復号化手段
 - 112、211 乱数生成手段
 - 113、114 乱数種記憶手段
 - 115、116 相互認証処理手段
 - 117、118 時変鍵生成手段
 - 119、120 暗号化復号化手段
 - 121 機密データ
 - 122 機密データ記憶手段
 - 123、124 乱数種更新手段
 - 327 コンテンツ鍵生成手段
 - 329 第2暗号化手段
-
- 331 コンテンツデータ
 - 333 コンテンツ付加情報
 - 335 第3暗号化手段

【書類名】 図面

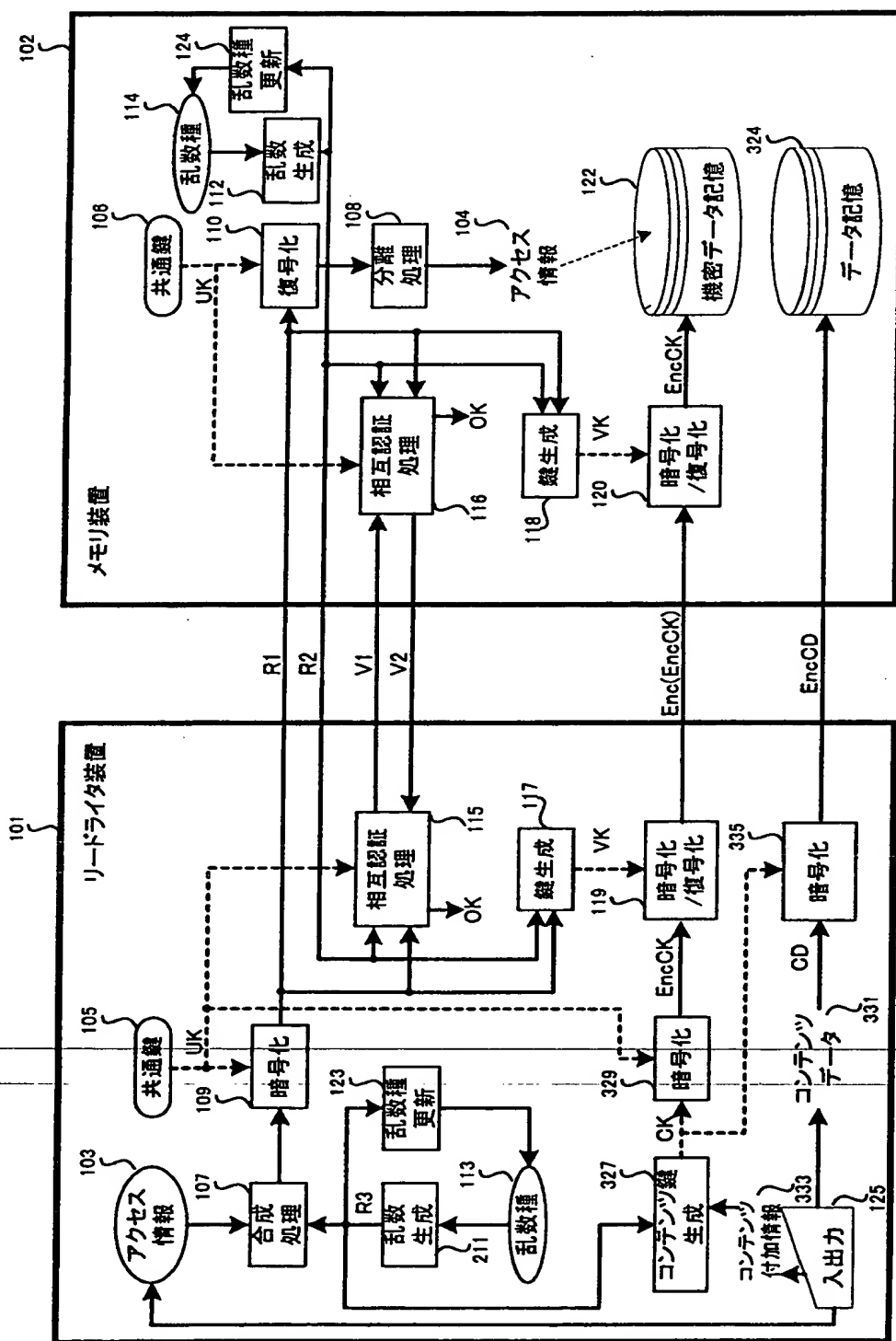
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 機密データが格納されている機密データ記憶領域にアクセスするための情報（アドレス、セクタ数など）の機密性を高め、かつ不正に改竄された場合に機密データ記憶領域にアクセスできなくするようにして、機密データを不正に入手することを防止する装置およびシステムを提供する。

【解決手段】 共通鍵を用いて暗号通信を行うリードライタ装置あるいはメモリ装置において、リードライタ装置及びメモリ装置はチャレンジレスポンス型の相互認証によって相手機器が正当な機器であることを認証すると同時に機密データ記憶領域にアクセスするための情報を暗号化して転送を行う構成とした。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005821]

1. 変更年月日 1990年 8月28日
[変更理由] 新規登録
住 所 大阪府門真市大字門真1006番地
氏 名 松下電器産業株式会社

THIS PAGE BLANK (USPTO)